

2025 年(令和 7 年)度
事業計画書

自 令和 7 年 4 月 1 日 至 令和 8 年 3 月 31 日

公益財団法人 理数教育研究所

令和 7 年度運営方針

- 引き続き、教育界の動向に留意しながら、公益財団法人化に向けて定款で定めた「調査・研究／助成・支援」、「研修機会の提供／情報発信」、「数理的知性の涵養」の 3 つの各事業について、さらなる推進と改善に向けた取り組みを行う。

I 調査・研究／助成・支援

<研究助成>

- 今年度から、公募による研究助成を開始する。

1. 名称

Rimse 研究助成

2. 研究助成の趣旨

理数教育の振興・充実のために、先進的・先駆的な理数教育および関連する内容について、意欲的に研究に取り組んでいる団体、学校または学校関係者による研究グループに対して助成を行う。

3. 研究助成の対象

- ① 児童・生徒の数理的知性の開発につながる理数教育および関連する内容について、意欲的に研究に取り組んでいる団体、学校または学校関係者による研究グループ。
- ② 原則単年度の助成とするが、特段の理由がある場合は 2 年まで助成の対象とする。
- ③ 原則として、過去 3 年以内に当法人から研究助成を受領された方は対象としない。

4. 助成金額

1 件 30 万円以内（総額 100 万円以内）

5. 応募方法

所定の用紙に必要事項を記入し、当法人に送付。

6. 申請受付期間

令和 7 年 2 月 1 日～4 月 30 日（当日消印有効）

<後援>

- 第 23 回統計教育の方法論ワークショップ

主催：日本統計学会統計教育委員会

開催日：令和 8 年 2 月～3 月頃

<東京懇談会>

- 東京懇談会では、引き続き調査・研究及びを行い、「令和の日本型学校教育」に対応した学校運営や教員養成・採用・研修の変化について、現場の実態をしっかりと踏まえ、新たな時代に対応した協議、提言を行っていく。

学校現場や家庭を対象とした Web アンケートは調査研究部会が中心で行う。

会議開催日：年に 2 回（3 月，10 月）開催する。調査研究部会については適宜開催。

Ⅱ 研修機会の提供／情報発信 ……………

<広報誌の発刊>

○ 次年度の発刊計画は次のとおりである。

令和 7 年（2025 年）6 月 発刊 No.43

巻頭言 榊 裕之（奈良国立大学機構 理事長）

特 集 評価から見る主体的・対話的で深い学び Ⅱ

令和 7 年（2025 年）10 月 発刊 No.44

巻頭言 未定

特 集 未定

令和 8 年（2026 年）2 月 発刊 No.45

巻頭言 未定

塩野直道記念 第 13 回「算数・数学の自由研究」作品コンクール 受賞作品の発表

特 集 未定

連載の構成は以下のとおりである。

「やさしい電気化学」 鎌田 正裕（東京学芸大学 教育学部 自然科学系 教授）

「確率の現代的活用」 松原 望（東京大学名誉教授／ベイズ総合研究所代表取締役）

「物理用語の成り立ち」 西條 敏美（元徳島県公立高等学校 教諭）

<講演会開催>

○ 未定

<全国参与会議>

○ 第 13 回 全国参与会議

令和 7 年（2025 年）12 月 20 日（土） 14：00～17：00 アルカディア市ヶ谷（予定）

全国より参与の先生方にお集まりいただき、理数教育研究所の活動報告と情報交換の後、研究所の運営についてご意見をいただく。

また、文部科学省や国立教育政策研究所などから専門家を講師に招いて教育講話を聴講。

<SNS による情報発信>

○ 引き続き、YouTube の「MATH コンチャネル」による情報発信を行う。主に、「算数・数学の自由研究」作品コンクールの認知度を高めたり、探究的な学習活動につながるコンテンツを発信する予定である。

○ X（旧 Twitter）による作品コンクール等に関する情報発信を継続する。

Ⅲ 数理的知性の涵養 ……………

<児童・生徒対象の表彰制度>

○ 第 13 回 塩野直道記念「算数・数学の自由研究」作品コンクール

令和 7 年（2025 年）12 月 21 日（日）10：00～14：30 アルカディア市ヶ谷（予定）

昨年度（第 12 回）の応募数は前年度をやや下回る 15,570 作品であった（第 11 回は 15,699 作品）。本年度もコンクールの開催に取り組む。

○算数自由研究教室（羽曳野市）

令和 7 年 5 月開催予定

○第 2 回 島根県算数数学自由研究教室

令和 7 年 7 月開催予定

○第 3 回 奈良県算数・数学の自由研究作品発表会

開催時期は未定

以上